



HPはこちら

東日本ユニオン NEWS

JR東日本労働組合
発行者 情報宣伝部
2025年2月7日 No.836

第12回中央委員会を開催



2025 春闘要求決定！この間の取り組みの成果を確認し 次期定期大会までの活動方針を確立！

東日本ユニオンは2月6日、東京都「北とぴあ・ペガサスホール」において「第12回中央委員会」を開催しました。今中央委員会では「第13回定期大会」以降、全組合員で作りだしてきた取り組みの成果を全体で確認し、次期定期大会までの活動方針をはじめとするすべての議案を満場一致で承認・決定しました。

あいさつに立った藤本中央執行委員長は「社員に期待されない会社、本音を語れない会社では社員と家族の明るい未来は創造できない。この否定的な現実を共に変えていく仲間たちの拡大、そして東日本ユニオンへと高めていこう」と呼びかけました。

質疑では中央委員より2024年度年末手当の取り組みや安全問題、組織拡大の教訓など、職場から作りだしてきた成果が語られ、提起した活動方針が補強されました。

「第12回中央委員会」で確立した方針のもと、東日本ユニオンの団結力をさらに強化し、この団結力と熱意をもって2025春闘勝利と組織拡大に挑んでいく意思を参加者全体で打ち固めました。

「2025 春闘」要求実現のために 全組合員の団結と熱意で闘いに挑む！

委員会宣言（案）

本日、私たちは東京都「北とぴあ」において「第12回中央委員会」を開催し、2025春闘の方針をはじめ、組織の強化・拡大の取り組みなど、当面する活動について満場一致で確認した。

2024年9月19日、東北新幹線はやぶさ・こまち6号が時速300キロを超える速度で走行中に列車が分離するという前代未聞の事象が発生した。幸いにもお客さまをはじめ関係社員の怪我等は発生しなかったが、お客さまの命、そしてJR労働者の命を守るためにも職場から安全について議論をつくり出すことで、労働組合の立場から重大労災事故を起こさない取り組みを進めていく。

同じ時期、JR東日本は鉄道車両の「輪軸」の組み立て工程で圧入力値が規定の範囲を下回って組み立てられ、運用されている車両があることを発表した。その後、検査データが規定値に収まるように改ざんされていた事象も発覚した。ふたたび企業の不祥事によって地域社会やご利用されているお客さまからの信頼を失墜させ、社員の努力を決して無駄にするようなことがあってはならない。

JR東日本は2月3日に「2025年3月期第3四半期決算」を発表した。通期業績予想を上回る推移で、連結・単体ともに好業績を上げている。この好業績を生み出している背景には、インバウンド需要やお客さまのご利用状況が増加していることもあるが「変革2027」の実現に向けて様々な会社諸施策を担っている社員の奮闘に支えられているものである。会社組織の再編や社員の働き方の変化に加え、一人ひとりの業務量が増加している中においても奮闘している結果であることを労使で確認していくことが重要だ。経営側が掲げている「会社の持続的に発展」に向けて全社員が日々の「安全・安定輸送」を支え「より良いサービスの提供」を目指して奮闘していることに対し、経営側は「社員が求めている働きがい」に真摯に向き合い応えるべきである。

昨年の春闘ではベースアップを含む賃金改定となったものの、期末手当の支給額には各職場で不満が渦巻き、相次ぐ光熱費や食料品をはじめとする値上げの動向はとどまりをみせず「賃金が上がった」という実感は得られていない。今、生計費に苦しみ、将来の人生設計を描けずに不安を抱えているのが社員の現実である。

東日本ユニオンは、2025春闘をスタートする！

今委員会で確認された、この間の取り組みの意義と成果の上にたって、東日本ユニオンは全組合員で要求の実現に向けて、すべてのJR労働者と連帯を求め、全国各地から寄せられる「本音」をも大きな力にして突き進もう。

多くのJR労働者から東日本ユニオンの取り組みに対する期待や賛同などの声を背に2025春闘は「納得のいく定期昇給」「納得のいくベースアップ」を求め「基本給を上げる」ことを合言葉に、すべてのJR労働者の団結と熱意で2025春闘を勝利しよう。

私たち東日本ユニオンは結成してから10年間、組合員の利益を守ることを第一に掲げ、ときに困難な道のりも乗り越えてきた。全組合員で語り合い様々な取り組みを行ってきたからこそ、より強固な団結力を生み出し、組織拡大も実現してきた。このことに自信と確信を持ち、東日本ユニオンの未来を創造し、より強く、より大きな組織へと発展させていくために、すべての組合員で奮闘しよう！

2025年2月6日

JR東日本労働組合

第12回中央委員会